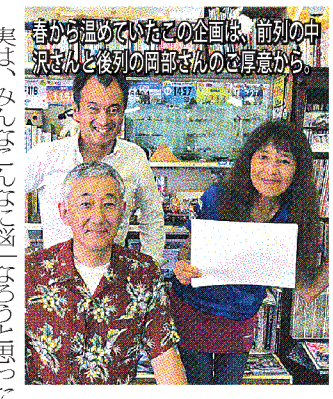
道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード


春から温めていたこの企画は、前列の中沢さんと後列の岡部さんのご厚意から。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

実は、みんなどんなに悩んでいたのね。「教習所コースでぐるぐる遊ぼう」と題して、長野は須坂市の教習所跡地でスキルアップイベントを開催するにあたり、参加者に課題を聞いてみると、何年のベテランでも、「狭小ターンが苦手」「基本動作を確認したい」など初心者と同じような悩みがあり、びっくり。

今回のキッカケは、リターンバイク女子。子育てが終わってせっかく再び風になろうと思ったのに、立ち転けしたりUターンが怖かったりでいつもビクビクという人のなんと多いこと。そんな様子を見ていて「やりませんか?」とお声掛けしてくれたのが、現在自動車教習所にお勤めの中沢さん。教習所コースでやれば公道より危険は少なく、同じ動作を何度でも学ぶことが出来ます。交渉次第で跡地を借りられるというので、そのチャンスを待っておりました。時を同じくして知り合った岡部さんは、元国際A級のモトクロスライダーで、レース中に背後からバイクが降ってきて負傷。再起不能と言われたのに再びバイクを操り、ジムカーナに挑戦し、全国安全大会では大型2輪クラス6位という成績を収めた方。「オフでもオンでもいくらでも教えますよ」と有難いオファーを頂いておりました。安全運転指導員のお二人が直々に指導という夢のような話。さっそく9月末の開催日が決まると、あっという間に30人の定員が埋まってしまいました。そして、その「学びたい欲」のお陰でしょう、最高の楽しいイベントとなりました。当日何かアクシデントがあった時のためにメカニックをかって出てくれたメカ班、動画や静画の撮影に奔走した撮影班、屋台を持ち込んで焼きそばやデザートを儲けなしで振舞ってくれたランチ班。さまざまなフォローに回った数は15人と、至れり尽くせりでした。

免許歴も年齢もバラバラ、車種もスクーターからハーレーやサイドカーまで、まるで見本市。講師陣が掲げたテーマは「苦手を克服し、私のバイク楽チンに乗れるようになって帰ろう」でしたが、それは見事に実りました。初級班は、ほぼ女子でリターン多し。中級班は腕に自信のある男子と女子が3名ほど。スラローム、ブレーキング、8の字の合間に、バイクはなぜ動くのか的な講習がありと盛りだくさんでしたが、個々に講師2人の魔法のような話術（褒めて褒めて訂正箇所を分かりやすく伝授）のアドバイスあり、最後にはみんな別人のようにスムーズになっていました。初級も、最後は中級に混じって遜色ないスラロームができるまでに成長。

たった4時間で、しかも美味しいやきそば食べてみんなでワイワイ遊んでいただけなのに、こんなに上手くなってしまうなんて！もっと走りたくて、誰一人も「休憩したい」とならなかった今回のぐるぐる練習会。毎回300キロは軽くツーリングする人も、レースやっている人も、通勤でバイク乗っている人も、みんな帰り道が驚くほどスムーズで「格段にステップアップした」感があったと報告を受け、講師陣は涙々。そもそも哀しい事故を避けたいという思いで始まったこの企画、免許を取ったらすぐに何度もやりたいものですね。各団体で色々開催されているとは思いますが、こうして手弁当でみんなで上手くなるって、最高に嬉しい。帰りは土砂降りだったのに全然気にならず、ずっと鼻歌まじりでした♪《撮影協力・小須田さん、福原さん、小林さん、高井さん》

全国6位の岡部講師の技も拝見できました。めちゃ速なのにスムーズで勉強になります。

最後は「毎週でもやって欲しい」コールが教習所跡地に鳴り響いた。

メカ班にハンドルとステップの位置を変えてもらい、とても楽になった真理ちゃん。他にも数名をヘルプ！

岡谷のカフェチーム4名。走りたくてうウズウズしつつもスペシャルなランチを提供してくれた。

それぞれの力量がすぐに分かるクランク。周回ごとにどんどんうまくなっていくのが分かる。

エンジン構造からなぜ微妙なアクセルワークが必要かを学ぶ。以後、頭に「バーシャル」が鳴り響く。

8の字で声かけしながら個々に教える中沢さん。スクーターならではの技なり。

休憩時間にはBMWの旧車サイドカーでの体験走行も。初体験で雄叫びか～♪遊園地？

国産スポーツ、サイドカー、オフ車、外国製スポーツと続くスラローム。撮影班も頑張った！

ベテランから免許歴半年までの女子が揃った初級。苦手なところこそみっちり。

九州の散歩道
空を舞う「バルーン」を追跡

フリージャーナリスト　湯浅玲子

大空を自由に飛び回るという人類の夢を叶えてくれるバルーン（熱気球）。世界中に愛好者がいて、スカイスポーツとして競技会も行われています。今や世界規模の大会となったのが、毎年秋に行われる佐賀インターナショナルバルーンフェスタ。佐賀市の嘉瀬川河川敷を主な会場に、広々とした佐賀平野で熱戦がくり広げられるアジア最大級の熱気球競技大会です。

もともとは1978年に行われた小さなバルーンのイベントがきっかけでしたが、80年に会場を佐賀平野に移してからは年々大きくなり、現在では100万人近い観衆を集める大会となっています。過去には世界選手権としても3回開催されたことがあります。

バルーン競技は、目的地までどれだけ近づけるかを競うスポーツです。自動車のようにハンドルやアクセル・ブレーキで簡単に操作できないバルーンは、自然の風を利用しながらバーナーで気球を上げ下げして操縦します。目的地が近づくとマーカーと呼ばれる砂袋を落として、目的地とマーカーの距離が近いほど高得点になります。

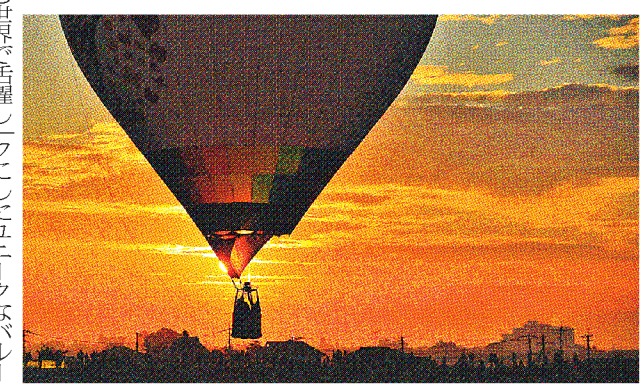
バルーンにはパイロットと呼ばれる操縦者が乗っていますが、実はバルーンを動かしているのはパイロットだけではありません。クルーと呼ばれる仲間が3～4人は必要です。クルーは気球の準備をするのはもちろんですが、地図を読んだり、細かい気象条件を確認してパイロットに伝えるなど、重要な役割を果たします。地上ではチームごとにチェイスカーが走っていて、クルーはこの車に乗ってバルーンを追いかけるのです。

気象条件に左右されるバルーン競技は、開始直前まで試合が開催できるかどうか分からないこともあります。また風を読んだりする経験も必要なので、年齢が高い選手でも世界で活躍しています。パイロットとして活躍した後は、経験を活かしてクルーとなって後輩を育てる人も多いのです。

今年の佐賀インターナショナルバルーンフェスタは第40回目を迎え、10月30日～11月4日に行われます。競技部門だけでなく、のんびりとフライトを楽しむ部門、アニメや動物をモチーフにしたユニークなバルーンの競演、バルーンの体験教室なども行われます。ステージイベントもあり、ホンダのトライアルバイクショーもあるそうです。見ているだけで秋の一日を楽しめそうです。

（写真提供：佐賀市観光協会）

いくつものバルーンが飛び立つ佐賀の嘉瀬川河川敷


早朝からの競技で、朝焼けの中に浮かぶバルーン

ハッと思いました

ラグビーワールドカップ真っ只中です。四年前の日本チームの快挙を再び・・と思っていましたが、なんとなんと期待を大きく上回り試合ごとに興奮し熱くなってしまいます。各国の選手も応援の人たちも、中には飲んで騒がしいグループもいますがご愛敬。概ねマナーは良好。郷に入れば郷に従え的に日本を受け入れて馴染んでいるようです。

人はお互いを尊重し理解する事、その努力をする事で、平和な時を共有できるんだと、今更ながら教えられました。ノーサイドもそう言う事なんですね。

昨今、誰もが口にするインバウンド。外国人の訪日観光ですが、彼らに人気なのが、あのリアルマリカー。カートに乗って町の中・公道を走るアトラクションです。何度か見かけたことがありますが、私には自殺行為にしか思えませんでした。

インバウンドの名の下にオモテナシのつもりで、なんでも希望を叶えましょうと公道カートを提供する事は、本当にオモテナシなのでしょうかね。先ずは訪日外国人の安全が第一なはず。

法律に翻弄されて、速やかな規制が出来ないなんてなんと愚かな事でしょうか。

一般のドライバーや歩行者が巻き込まれてからでは遅いんですよ。

現状、日本では運転席の隣を助手席と言いますが、海外では、助手席も後部座席も全てを搭乗者席（パッセンジャーシート）と言うらしいです。一説には大正時代のタクシー（外車）で客の乗降サポートのための乗務員席だとか。こういうのがの本当のオモテナシ精神のサービスですね。

さてさて、今やハンドルに手を触れずに走り続けるクルマが夢ではなくなってきました。果たして、これは多くの人（私だけか?）が認識しているクルマなのかな?人がついて行けない変化じゃない?